

ネットワークアンケート ⑩

糖尿病ネットワークを通して

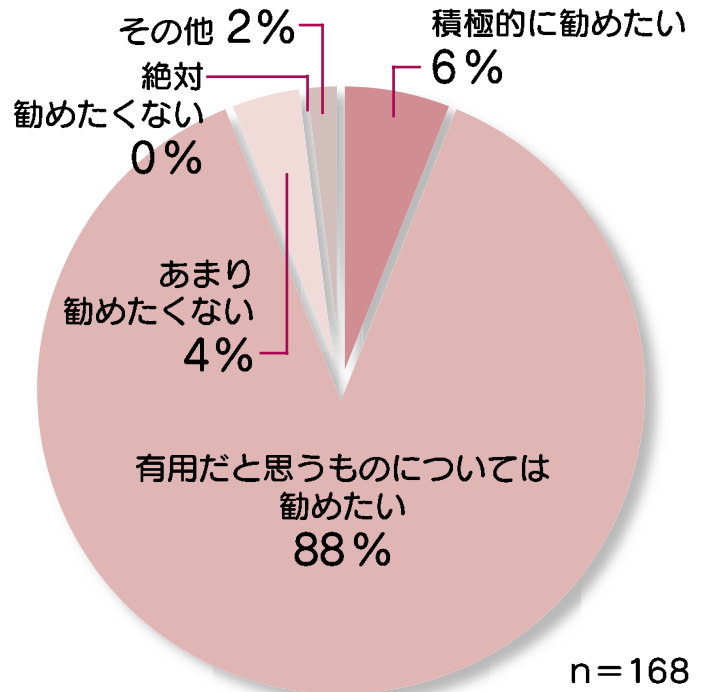
医療スタッフに聞きました

Q. 担当する糖尿病患者さんに「治験」を勧めたいと思いますか？

医療の進歩には薬剤や医療機器の「治験」が欠かせません。「治験」は、いまだに“人体実験”といった不安なイメージがつきまとうようですが、薬剤や医療機器を頼りにする糖尿病患者さんは新薬の開発を大きな期待と興味を持って見据えているといった様子ではないでしょうか。今回、予想を上回る多くの患者さんからご回答を頂いたのは、その表れかもしれません。

[回答数：医療スタッフ169(医師41、看護師55、准看護師4、管理栄養士20、薬剤師27、臨床検査技師10、理学療法士2、その他10。うち日本糖尿病療養指導士44)、患者さんやその家族467(食事療法を行っている304、運動療法を行っている251、経口薬の服用している182、インスリン療法を行っている286。重複回答)]

*ここでいう「治験」とは、新しく開発されたお薬について医療用医薬品として国の認可を得るために、病院などの医療施設で行う臨床試験をいいます。

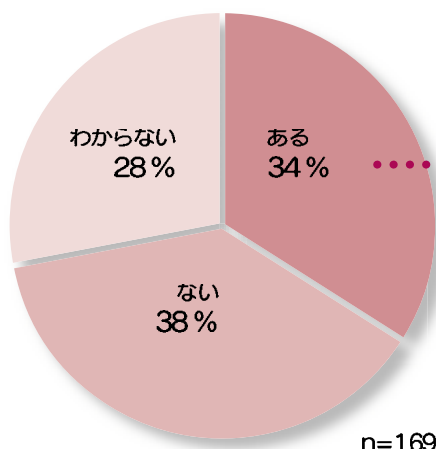


医療スタッフのほとんどが、担当する糖尿病患者さんに「治験」を「勧めたい」と答える一方で、「担当する糖尿病患者さんが「治験」に参加したことがある」と答えたのは3割強でした。推進に前向きな反面、実施経験が少ないのは、「勤務する病院・クリニックが「治験」の実施(受け入れ)を経験したことがない」方が

48%であることにも関係がありそうです(「経験したことがある」と答えたのは52%)。「同じ患者が何度も治験に参加する傾向があり、選択バイアスがかかっているのでは。多施設(大学、地域の基幹病院)で1カ所では少数ずつ、治験を行うべき(医師)」というような意見もありました。

「治験」に参加する際、どの点に留意する必要があると思われますか？という質問では、上位から「副作用が起きた場合の対応」「参加前や実施中の患者さんへの情報提供」「治験終了後のフォロー」「治験中に他の治療薬を使用できない」といった事柄が続きました。自由記述でも、「説明・納得してもらうのにとても時間がかかる(医師)」「治験に対して前向きに考えている糖尿病患者さんは意外に多く、DM歴が長い患者さんであれば、良好なコントロールを維持することの難しさを身を持って経験しており、新しい治療法・治療薬について興味があるのではない(医師)」「長期間の検討がしにくい(医師)」といった問題や「連絡や時間調整など様々な負担ばかりで他の業務や患者さんに迷惑がかかることも多い(看護師)」というようなコメディカル側の苦労などもうかがえました。

Q. 担当の糖尿病患者さんが「治験」に参加したことは？



Q. 治験終了後、患者さんの状態・印象は？

